

安中市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン【平成27(2015)年度～平成72(2060)年度】

●安中市まち・ひと・しごと創生総合戦略●

安中市は、都市の活力の源泉である人口が減少局面にあり、このまま人口が減少し続けることで、まちづくりや社会資本整備、地域経済、教育・福祉、地域コミュニティ、行政経営など様々な分野への影響が見込まれています。そこで安中市では、人口減少や少子高齢化を“変革”のチャンスととらえ、“人口減少の緩和”と“人口減少を前提としたまちづくり”の両面から、今後目指すべき方向性をまとめた「安中市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。この戦略は、国の「まち・ひと・しごと創生法」(平成26年法律第136号)に基づく地方版総合戦略であり、安中市が将来に向け持続的に発展できるよう、各施策展開に取り組んで参ります。

安中市の将来人口予測 ～人口減少～ ～少子高齢化～

- ・平成27年の国勢調査人口(人口速報集計結果)は、58,529人です。
- ・住民基本台帳データによれば、平成11年から人口減少が続いており、現在の出生・死亡状況や転入・転出状況が続くと、45年後(平成72年)の人口は現在の半分以下になる見込みです。
- ・少子高齢化の進行で、特に75歳以上人口の急増が目立ちます。
- ・地区別には、坂本地区など山間地域を中心に人口が大きく減少する見込みです。

現在(平成27年)
人口 58,529人
0～14歳 11.2%
15～64歳 56.1%
65歳以上 32.7%
(75歳以上 16.5%)
※年齢構成は、平成22年人口に基づく推計値

20年後(平成47年)
将来人口 45,184人
0～14歳 8.0%
15～64歳 47.7%
65歳以上 44.3%
(75歳以上 28.3%)

45年後(平成72年)
将来人口 26,876人
0～14歳 6.7%
15～64歳 40.0%
65歳以上 53.3%
(75歳以上 38.1%)

安中市の将来展望

将来の展開方針に基づく施策を着実に進めることで、人口減少の速度を緩和します。
(※出生率と移動率について、現在の傾向が続けば、45年後(平成72年)の人口は、26,876人まで減少する事が予測されています)

目標人口 45年後(平成72年)に35,000人を超える水準へ

- 出生率を改善することで、平成72年に約3万人を超えること
- さらに移動率を改善することで、平成72年に3万5,000人を超えること

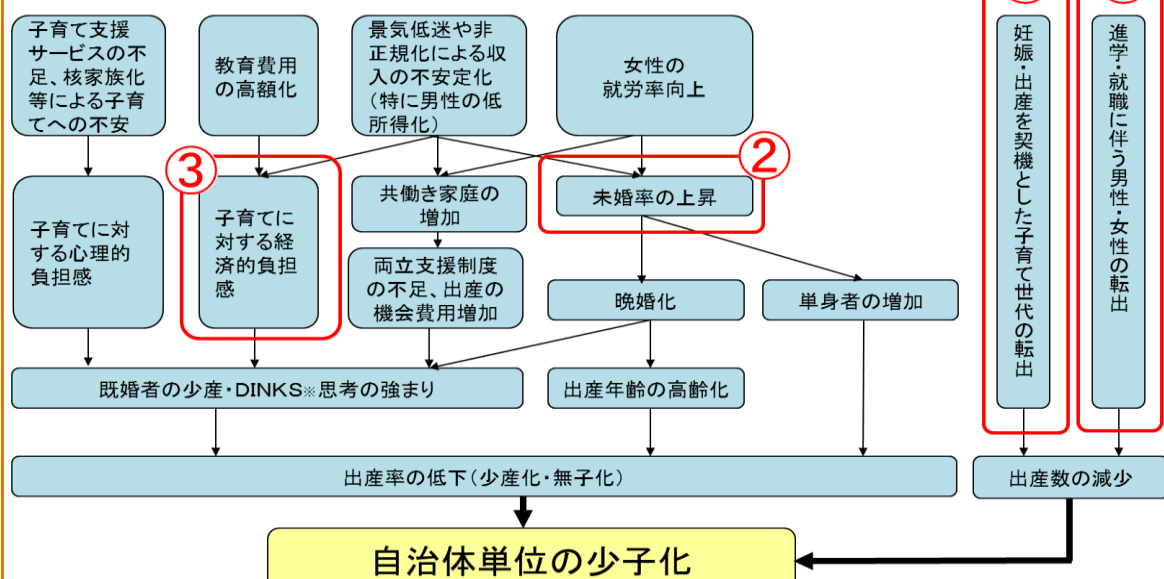
施策の展開方針

- 1 産業を育て安心して働ける環境をつくる
- 2 安中市に行きたい・住みたい人を増やす
- 3 結婚・出産・育児を応援する環境をつくる
- 4 子どもの成長を地域で見守る環境をつくる
- 5 人口減少に対応した自立した地域をつくる

安中市の課題

・安中市は、「出生数<死亡数」、「転入数<転出数」の状況が続いており、出生率改善と転出抑制の両面で取り組む必要があります。特に**出生率は県内12市で最も低く**、改善が急務です。

少子化の背景



- ①20代を中心とした就職に伴う転出の抑制
- ②周辺自治体と比べ高い未婚率の改善
- ③子育てに対する経済的負担感の軽減
- ④周辺自治体と比べて不足する子育て・医療環境の改善

※DINKS思考: 共働きで意識的に子どもを作らない、持たない、又はそういったライフスタイル。

展開アプローチ

地域づくりからみたアプローチ ～住民の力～

- ・「誇れる地元づくり」を進めるため、地域に対する住民の関心を高めるとともに、熱意と責任感を持って街づくりに関わっていただけるような環境を整えます。
- ・地域の特性や課題を踏まえたまちづくりを展開するために、住民の知恵やアイデアを引き出すための仕組みづくりや、市民団体やボランティアを育成・支援するための仕組みづくりを行います。
- ・医療体制の確立や子育て環境の充実をはじめ、周辺地域・周辺自治体との連携を強化します。

産業からみたアプローチ ～企業等の力～

- ・高い交通利便性がありながら、産業用地として十分活用されてこなかった用地や、これまで対外的な情報発信が十分なされてこなかった地域資源を有効に活用することで、地域産業の活性化を図ります。
- ・周辺自治体に勤務するファミリー世代から、ベッドタウンとして安中市が選ばれるよう、子どもたちがのびのびと生活でき、豊かな自然に囲まれた住環境を提供します。

連携

コントロールタワー ～行政の力～

- ・地域づくりの担い手である住民の力と、地域産業の担い手である企業等の力が最大限に発揮できるよう、街のコントロールタワーとしての役割を果たします。
- ①地域全体を見渡し、地域の課題や方向性を指し示す役割
- ②民間のアイデアを引き出し、活動の自立化や発展を支援する役割
- ③住民や企業、周辺自治体、国、県等の様々な活動主体をつなぐ役割

安中市まち・ひと・しごと創生総合戦略【平成27(2015)年度～令和2(2020)年度】

安中市とつながる“人”を増やすために

安中市で働く

1 産業を育て安心して働ける環境をつくる

<基本目標>

- ◇新規雇用を拡大することによる若者世代の転出抑制
- ◇地域の強みを活かすことによる地域経済規模の維持・拡大
- ◇産業拠点としての安中市の認知度や競争力の向上

<数値目標>

- ・市内事業所数
2,439事業所⇒2,500事業所

施策1 市内で働く人を増やす就職支援
・新規就労者支援事業 など

施策2 農業の成長産業化
・地域農産ブランド立ち上げ事業
・6次産業化支援事業 など

施策3 雇用を生み出す企業誘致の促進
・工業団地造成
・企業誘致事業 など

施策4 創業や経営革新に対する支援
・起業者セミナー事業
・店舗改装助成事業
・安中市ぐんま新技術・新製品開発推進補助事業 など

安中市で楽しむ・暮らす

2 安中市に行きたい・住みたい人を増やす

<基本目標>

- ◇地域資源の磨き上げと広域連携による観光客数の増加
- ◇安中市の魅力を体験する機会の拡大
- ◇様々な移住・定住スタイルを提供することによる転入促進

<数値目標>

- ・市内観光地における観光客数
約138万人⇒約144万人
- ・転出超過数(転出－転入)
165人⇒150人

施策1 地域資源を活かした観光産業の振興

- ・DMO設立事業
- ・フィルムコミッション事業
- ・中山道おもてなし事業 など

施策2 安中市への定住・移住支援
・移住対策事業
・定住促進型・子育て支援型住宅
・利子補給補助事業 など

安中市で結婚・出産する

3 結婚・出産・育児を応援する環境をつくる

<基本目標>

- ◇結婚・出産・育児に希望を持てる若者世代の増加
- ◇官民連携による未婚率の改善
- ◇妊娠や出産に対する不安を解消することによる子どもの増加

<数値目標>

- ・未婚率
男性51%⇒46%、女性36%⇒31%
- ・合計特殊出生率 1.30⇒1.5
- ・保育園・幼稚園第3子以降無料化対象児童数 289人⇒310人

施策1 結婚のきっかけづくり
・婚活支援事業
・(仮称)結婚意識醸成事業 など

施策2 妊娠・出産に対する支援
・不育症治療費助成事業
・妊婦健診交通費補助事業
・産後ケア支援事業 など

施策3 子育てにかかる経済的・精神的負担の軽減

- ・学校給食費無料化事業 など

施策4 ワーク・ライフ・バランスの推進
・男女共同参画推進事業

安中市で育てる

4 子どもの成長を地域で見守る環境をつくる

<基本目標>

- ◇安中市で子育てしたいと思うファミリー世代の増加
- ◇子育てを楽しむための、地域の助け合いや多様な交流の促進
- ◇子どもの健やかな成長を支える保育環境や保健・医療体制の維持

<数値目標>

- ・子育て支援サービスに満足していない割合
就学前30%⇒30%、就学後32%⇒30%
- ・子育て施設の整備状況に満足していない割合
就学前25%⇒20%、就学後34%⇒30%
- ・子育て支援に関する情報提供体制に満足していない割合
就学前40%⇒30%、就学後43%⇒30%

施策1 子育てを楽しむ多様な交流促進
・子育て支援拠点等整備事業
・(仮称)子育て情報発信事業など

施策2 地域で助け合う子育て環境の整備
・次世代育成支援対策事業 など

施策3 子どもの成長をともに支える保育環境の整備
・民間保育所運営事業 など

施策4 子どもの健康を守るための保健・医療の実施
・子ども医療費助成 など

持続可能な“まち”をつくるために

安中市を変える

5 人口減少に対応した自立した地域をつくる

<基本目標>

- ◇安中市に住み続けたいと思う市民の増加
- ◇地域の課題に対応できる、持続可能な地域コミュニティの構築
- ◇人口減少に対応したコンパクトシティの実現

<数値目標>

- ・安中市が住みやすいと思う市民の割合 62%⇒65%

施策1 市民の暮らしを守る住環境の整備
・空き家対策事業
・住宅リフォーム補助事業 など

施策2 市民の力によるコミュニティの強化
・地域コミュニティサロン整備事業
・地域活動団体等支援事業 など